

簿記・会計 解説

第2問

資料1の取引に基づいて資料2の仕訳帳に勘定科目を記入すると以下の通りになる。

月日	摘要	借方	貸方
7 2	諸口 (売上) (受取手形) (売掛金)	400 ()	()
3	(仕入) (受取手形) (保証債務費用) (保証債務)	() () 4	() () 4
4	諸口 (売上) (手形売却損) (当座預金) (売掛金)	[カ] 309 ()	400
5	(仕入) 諸口 (売掛金) (現金)	()	() [キ][ク]
8	(未着商品) (買掛金)	200	200
10	(受取手形) (売上) (仕入) (未着商品)	() () ()	() () ()
11	(不渡手形) 諸口 (受取手形) (現金)	303	300 3
13	(積送品) 諸口 (仕入) (現金)	260	() ()
18	(売掛金) (売上) (仕入) (積送品)	() () ()	() () ()
31	(現金) 諸口 (不渡手形) (受取利息)	()	() [ケ]

問1. 仕訳表の太字は問1の解答に当たるため

- [ア]: **d.** 保証債務費用
 [イ]: **5.** 未着商品
 [ウ]: **7.** 不渡手形
 [エ]: **a.** 積送品
 [オ]: **1.** 売掛金

問2. 資料2～資料4の内容をもとに仕訳帳の空欄の金額を記入していく。

2日：資料4の売上の勘定元帳から、売上は ¥ 520 であることから仕訳は以下の通りになる。

受取手形	400	売上	520
売掛金	120		

3日：2日の受取手形を裏書譲渡しているため仕訳は以下の通りになる。

仕入	400	受取手形	400
保証債務費用	4	保証債務	4

4日：資料3の売掛金元帳から、売掛金が ¥ 85 である。このことから仕訳は以下の通りになる。

手形売却損	[カ]	売上	400
当座預金	309		
売掛金	85		

したがって $[カ] = 400 - (309 + 85) = 6$.

5日：資料3の売掛金元帳と資料4の仕入の元帳から、仕訳は以下の通りになる。

仕入	330	売掛金	310
		現金	[キ] [ク]

したがって $[キ] [ク] = 330 - 310 = 20$.

8日：

未着商品	200	買掛金	200
------	-----	-----	-----

10日：8日の取引と資料4の売上の元帳より仕訳は以下の通りになる。

受取手形	280	売上	280
仕入	200	未着商品	200

11日：

不渡手形	303	受取手形	300
		現金	3

13日：資料3の現金出納帳から現金の支出は ¥10 であるため仕訳は以下の通りになる。

積送品	260	仕入	250
		現金	10

18日：13日の取引から仕訳は以下の通りになる。

未収金	360	売上	360
仕入	260	積送品	260

31日：現金出納帳から現金の受取額は ¥ 304 であるため仕訳は以下の通りになる。

現金	304	不渡手形	303
		受取利息	[ケ]

したがって、 $[\text{ケ}] = 304 - 303 = 1$.

資料2の売掛金元帳で、 $[\text{コ}][\text{サ}][\text{シ}]$ は2日の売掛金であるため $[\text{コ}][\text{サ}][\text{シ}] = 120$.

商品有高帳にて、3日の仕入は ¥ 400 である。商品有高帳の3日までの記入は以下の通りになる。

月日	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
7	1 前月繰越	60	17	1,020				60	17	1,020
	2 大分商店				20	17	340	40	17	680
	3 山口商店	20	(20)	(400)				60	$[\text{ス}][\text{セ}]$	()

3日の残高の金額は $680 + 400 = 1,080$ である。また商品の単価は移動平均法で求めるため、 $[\text{ス}][\text{セ}] = 1,080 \div 60 = 18$.

5日の仕入は ¥ 330 である。さらに5日までの商品有高帳を記入すると以下の通りになる。

月日	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
7	1 前月繰越	60	17	1,020				60	17	1,020
	2 大分商店				20	17	340	40	17	680
	3 山口商店	20	(20)	(400)				60	(18)	(1,080)
	4 大分商店				15	(18)	(270)	45	(18)	(810)
	5 山口商店	()	$[\text{ソ}][\text{タ}]$	(330)				60	()	()

4日から5日への残高の数量の変化から、5日の受入の数量は 15. よって $[\text{ソ}][\text{タ}] = 330 \div 15 = 22$. ちなみに5日の残高について、金額は $810 + 330 = 1,140$. 単価は $1,140 \div 60 = 19$ である。

受取手形記入帳について、10日の取引から $[\text{チ}][\text{ツ}] = 280$.

資料4の仕入元帳について、13日の取引から $[\text{テ}][\text{ト}][\text{ナ}] = 250$.

売上元帳について、18日の取引から $[\text{ニ}][\text{ヌ}] = 360$.

問3. 取引に基づいて仕入元帳に記入を行うと以下の通りになる。

仕入					
7/3	受取手形	400	7/13	積送品	250
5	諸口	330			
10	未着商品	200			
18	積送品	260			

従って借方に記入された金額の合計は $400 + 330 + 200 + 260 = ¥1,190$ である。